

令和6年大磯町議会

12月定例会一般質問（12月5日・6日）

質問議員	質問事項（1日目）	答弁者
<p>1 13番 おかみゆき議員 （60分） 9:05～10:05</p>	<p>1. 大磯式部活動について</p> <p>国は休日の部活動を段階的に地域へ移行する方針を示し、令和4年に、スポーツ庁と文化庁の連名で「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」が策定され、これを受け、令和6年度より大磯町内の公立中学校においては「大磯式部活動」がスタートした。</p> <p>この取り組みは、3年間で改革推進期間として地域移行を段階的に進め、可能な限り早期に実現することを目指すものとしている。</p> <p>全国的な背景には、児童生徒のニーズの多様化、生徒数減少に伴う部活動メニューの縮小、教員数の減少と勤務負担増といった課題がある。</p> <p>スタートから半年が経過した現在、全国的な背景はさておき、大磯式部活動において一定の反響が見られる。国が示す方向性を踏まえつつ、大磯町ならではの工夫や地域特性を生かした「子どもの居場所」ともいえる部活動の取り組みがどのような成果を上げ、またどのような課題を抱えているのかを伺う。</p> <p>（1）部活動の現状と課題について、子どもたちの成長の実感、指導者や保護者の反応、学校現場での変化は。</p> <p>（2）子どもたちへの「やりたい部活動」に関するアンケート調査の結果を踏まえ、その声がどのように反映されたのか。また、先生方へのヒアリングは実施されているのか。</p> <p>（3）配慮が必要な特別支援学級の子どもたちが参加可能となる部活動はあるのか。</p> <p>2. 観光振興について</p> <p>紺碧の海と緑豊かな自然が調和する大磯町では、今年1年を通じてビーチや港を活用したイベントや、自然を活かした多彩な取り組みが展開された。</p> <p>観光経済において箱根から海で繋がる湘南エリアという地域特性を最大限に活かし、「通り過ぎる大磯町」から「寄りたくなる大磯町」への変革が必要と考える。今年には多くのイベントが開催され、多数の方が訪れたことが地域経済に良い影響を与えたのではないかと推察する。</p> <p>地域経済の好循環のために「大磯らしい賑わい」の創出や「町民生活の潤いの持続」というビジョンが総合計画基本構想に明記されている。その実現に向けて、地域経済の発展と地域の賑わいについて伺う。</p> <p>（1）2024年は多くのイベントが開催されたが、大磯らしい潤いづくり協議会で開催されたイベントの動員数と、成果や改善点について町の評価を伺う。</p> <p>（2）盛り上がりを感じるレシートラリーであったが、町への経済効果として具体的にどの程度成果があったのか。</p>	<p>町長 教育長</p> <p>町長</p>

<p>11 : 20～12 : 15</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年10月は32,356人（世帯数は14,609世帯） ・令和6年11月は30,833人（世帯数は13,007世帯） <p>直近2年は人口減（-1,523人（-4.7%））が急激に進んでいる。このような状況の中、町内会（自治会）の運営も人口減、また高齢者（65才以上）の就業も増加傾向で、町内会（自治会）活動、特に町内会役員（区長・副区長・町内会長）、民生委員・児童委員、地域福祉推進委員など、成り手不足が深刻な状況である。</p> <p>また、社会情勢の変化（共働き世代の増、高齢者比率の増・一人生活者の増）などで、町内会加入率の低下、さらに各地区の子ども会、青年会、老人会、PTAの校外委員などの解散等、活動部門の減少などで、イベントが減少、かつイベントがあってもイベントそのものへの参加が低下してきている。</p> <p>この現状に対して、安心して暮らせる地域社会を維持・継続するためには、町内会の活性化は必須と考える。行政（学校・社会福祉協議会など含む）と町内会（自治会）との情報伝達・依頼事項なども含め、今まで通りの町政と町内会（自治会）の連携・運営は難しい状況と考えられる。今後の行政部門の取組み・対応について伺う。</p> <p>(1) 人口減、共働きの増加、労働年齢の高年齢化の中、町内会（自治会）の活性化に向けた施策（取組み）は。</p> <p>(2) 行政部門と町内会（自治会）との組織的連携の在り方（情報・意思伝達方法）で、行政側が対応することと、町内会（自治会）へ要望することは何か。</p> <p>2. 介護保険と「通いの場」について</p> <p>日本全体が少子高齢化の状況で、大磯町も高齢者の増加（65才以上が令和6年度10,701人）で、介護認定者数（令和6年度1,979人）が相対的に増加すると予想される。このような状況が今後も拡大する一方であり、そのための介護保険制度と理解する。介護保険料の負担推移は、第5段階（負担割合1.00）と比較すると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第八期（令和3, 4, 5年）は63,600円／年（5,300円／月） ・第九期（令和6, 7, 8年）は56,400円／年（4,700円／月） <p>11.3%の減と報告されている。介護保険料の推移と現在進めている「通いの場」（介護予防が目的）への補助金事業の進め方について伺う。</p> <p>(1) 介護保険料が神奈川県内で大磯町が最低との事だが、その理由は。</p> <p>(2) 令和5年度より進めている「通いの場」の推進事業で、令和6年8月の区長連絡協議会で協力を要請しているが、令和6年度の予算・予定件数と適用地区（町内会・件数）と今後の状況・見通しは。</p>	<p>町 長</p>
<p>4 7番 竹内恵美子議員 (55分) 13:15～14:10</p>	<p>1. 町内会（自治会）の区長へのサポートは</p> <p>(1) 各地区の区長さん同士の意見交換会は行っているか。</p> <p>(2) 自治会へ加入していない人はどのくらいか。</p> <p>(3) 各地区の公民館（地域会館）等の利用率は。</p> <p>(4) 各地区の運営費と活動費の補助は十分か。</p>	<p>町 長</p>

	<p>2. 地域学校協働活動について</p> <p>(1) 地域コーディネーターについて、町長答弁によると、令和5年4月から地域コーディネーターを委嘱したことを令和5年6月21日に区長会へ報告したということだった。地域コーディネーターの最初の決め方までの流れはどうだったか。</p> <p>(2) PTAによる地区校外活動もなくなり、学校と町内会との会話連絡がなくなり、朝の見守りなどの維持が難しくなった。国府小学校などは校長自ら現場でやっている。前回9月議会でも、町等から区長への依頼業務一覧表では、4月以降決定したものだから入っていないとのことだったが、今現在では入っているか。</p> <p>(3) 今後の進め方として、コミュニティスクールと地域学校協働活動との進め方をどのようにしていくのか。</p> <p>(4) 教育委員会の役割はどうなっているのか。</p>	町長 教育長
<p>5 5番 亀倉 弘美議員 (55分) 14:25 ~ 15:20</p>	<p>1. デジタルメディアを用いた広報戦略について</p> <p>近年、人々の情報収集行動が変容している。新聞や雑誌、テレビといった従来型メディアに代わって、ウェブサイトやSNSといったデジタルメディアが台頭してきており、特に若年層において顕著である。</p> <p>行政組織における広報広聴の目的とは、大きく、①住民に必要な情報を伝える、②住民のまちづくりや政策への参画意識を醸成する、③住民以外の人にも自治体の魅力を伝える、の3つだと言われているが、このいずれの目的に対しても、今後、デジタルメディアを用いた情報発信の充実は必要不可欠である。</p> <p>大磯町では、行政組織の見直しにより、令和7年度から政策課が再編され、これまで情報化推進係が担当していた広報広聴の業務が、秘書・広報係に移管される予定である。</p> <p>そこで、行政組織再編後のデジタルメディアを用いた広報戦略について伺う。</p> <p>(1) これまでの大磯町の公式ウェブサイトのリニューアルの経緯と更新等の運用状況は。</p> <p>(2) 公式ウェブサイトとSNSの活用状況と今後の課題は。</p> <p>(3) シティプロモーション(町の魅力を町内外の人々に発信することで町の活性化を目指す取組み)としてのデジタルメディア活用の検討状況と今後の戦略は。</p>	町長
<p>6 10番 清田 文雄議員 (55分) 15:35 ~ 16:30</p>	<p>1. 大磯町立小学校いじめ重大事態の早期解決を求める</p> <p>昨年4月に被害児童保護者が町の一連の対応について情報開示請求をされて「重大事態」に認定された件について、質問をする。</p> <p>本件は池田町長体制以降、調査結果の公表が大幅に遅れていることに、なぜ、遅れるのか、池田町長の忖度があるのではないかと疑問を抱かざるを得ない。</p> <p>そして、今年の7月25日に、NHKより大磯町立小学校の出席簿の不可解な記載状況について報道があった。出席簿の件は、当該被害児童が長期間いじめを受けていた中で、加害児童グループから差別的な発言や給食</p>	町長 教育長

の配膳について差別を受けたことで、給食の時間を安心して過ごすことが出来ず、学校を早退せざるを得ない期間のことを指している。

この件は、被害児童保護者が大磯町に対して個人情報開示請求をしたところ、計 65 日、被害児童は早退していたにも関わらず、その内 58 日は、実際に当時の大磯町立小学校の記録では早退としていなかったという事実が確認できている。早退は出席であることにはなる。しかしながら年間 65 日に及び早退した事実がほぼ記載されておらず、いじめが原因で給食を食べられずにいた事実が記載されていない極めて不可解な記載状況である。

また、今年の 8 月 9 日の福祉文教常任委員会協議会の場にて、教育長より「報道にあった出席簿の記載ミスは記載ミスとして問題であると受け止めている。一方でいじめ問題とは切り離してしっかりと対応をしていきたい」という主旨の発言があった。この出席簿の誤りの期間は加害児童グループから「デブは給食を食うな」と言われ、早退せざるを得ない期間と重なる。この件は第三者委員会の調査結果にも影響すると調査委員も NHK の取材でコメントをしている。切り離して対応することに疑問を持つ。

また、同協議会の場において、一部の現職町議が被害児童のいじめの件で、不誠実な発言、行動に関して、被害児童保護者の方より、池田町長、府川教育長、大磯小学校長宛に、「対応をお願いしたい」という切実な訴えを 8 月 20 日付けで書面を送付されたと伺っている。被害児童・被害児童保護者は当時、加害児童保護者の一部に元町議で現在も公職の人物に対して、当時の大磯町立小学校長、一部の関係者がその付度に同調したことに絶望を覚えている。

本件について、8 月 8 日に大磯町教育委員会が被害児童・被害児童保護者に送付した書面の中で、第三者委員会調査委員の協議の中で学校及び教育委員会が対応すべきことと調査委員会で扱うことはしっかりと分けて行う必要があると伺っている。

今回の一般質問については「第三者委員会で調査中」などと第三者委員会を盾として逃げることなく答弁をお願いする。

- (1) 昨年 4 月に発生した「大磯町立小学校いじめ重大事態」について、調査結果の公表が大幅に遅れている理由について、町の対応に問題があると思われるが、池田町長の考えは。
- (2) 今年の 7 月 25 日に NHK より大磯町立小学校の出席簿の不可解な記載状況について町の公表ではなく、被害児童保護者の情報開示請求がきっかけとなった点について、第三者委員会の調査結果にも影響が出るといわれているが、池田町長の考えは。
- (3) 今年 8 月 20 日に池田町長、府川教育長、大磯小学校長宛に、被害児童・被害児童保護者が送付した書面はお読みになったか。「はい」、「いいえ」でお答えを。また「はい」の場合は読まれた感想、「いいえ」の場合は読まれなかった理由を伺う。
- (4) 府川教育長にも、町長と同じ質問をするが、書面はお読みになったか。「はい」、「いいえ」の場合、各々の理由は。

	<p>2. 台風 10 号による豪雨災害に伴う大磯町の復旧対策について</p> <p>去る、8月29日から9月1日、台風10号の影響による豪雨により、大磯町内でも降り始めから4日間で438.5ミリの降雨量を記録し、土砂災害警戒情報が発令され多くの方が指定避難所に避難されるなど、町内に大きな緊張感と不安が走った4日間だった。幸いにも人的被害はなかったが、町内各所に土砂崩れ、床上・床下浸水や河川損傷など多くの物的被害が出た。折から町は9月定例会に台風10号の災害復旧費として予備費を含む8,920万円の補正予算を計上し議会はこれを認め、いち早い復旧に努めたと承知している。その後の復旧状況や今後の町の災害対策、今回被害が集中した土砂災害警戒区域でもある大磯町西部地区(森下地区・上町地区)の復旧状況や同じく今後の対策について問う。</p> <p>(1) 9月27日の議員全員協議会で示された、町の農業用施設・道路橋りょう施設・河川災害への現在の復旧状況はいかがか。また、今回の豪雨災害からどのような対策が町にとって必要なのか新たに分かったことがあれば伺う。</p> <p>(2) 要旨の中でも申ししたが、今回、西部地区の土砂災害警戒区域内での被害について、この地区においては直近に民家が迫って他の警戒区域より事態は深刻と考えられ、今回も区域内の隣で崩落があった。区域内で今後、更なる大きな崩落が起こらないとは言えない。県の事業である「急傾斜地崩壊対策事業」等により、早急に何らかの対策が必要であり、県で検討が進められていると聞いている。具体的な取組と達成するための期日について情報を把握しているか伺う。</p> <p>(3) 森下公園付近の町道国府新宿9号線が豪雨により冠水したが、これも警戒区域内を通る町道である。この道路北側には、住宅地開発による急傾斜地に多くの家屋があり、今回の豪雨により雨水処理の限界を超えたために冠水したものである。一時はすぐ下にあるJR東海道線の線路も冠水した。雨水管整備も直前まで整備されていると思うが、今後の整備状況は。また、整備することにより、解消されるのか。達成するための期日も含めて伺う。</p> <p>(4) 今回、被害の程度は異なるが、二宮町では、床上浸水41棟、床下浸水17棟という大きな被害が出た。そのため被災後、素早く災害ボランティアセンターの立ち上げや、床上・床下浸水の被害にあわれた民間の世帯にも素早く無料の消毒等の手配をした。大磯町では先に質問した町の施設・町道・河川の被害については、補正を組んで手当をしたが、民間所有の建物や民有地で被害にあわれた数は把握されているか、その災害対策はどうであったか。反省点があれば、その点も含めて伺う。</p>	町 長
--	---	-----

質問議員	質問事項(2日目)	答弁者
<p>7</p> <p>8番 鈴木 京子議員 (60分) 9:00 ~ 10:00</p>	<p>1. 不登校や登校しぶりの児童・生徒への支援は十分か 不登校に対する文部科学省をはじめとする見解は、以前と比べ大きく変化している。子どもを支える家庭・学校・社会の変容が求められていると、個別事例に接し痛感している。次の点について、所見を問う。 (1) 不登校時の対応に関する保護者への情報提供と共有はどのようなか。 (2) 相談体制は承知しているが、十分と考えているか。 (3) 学校等と家庭の連絡体制で工夫されていることは。 (4) 小学校給食の無償化は、不登校児童に不利益と考える。改善すべきではないか。 (5) (仮称) こども計画への反映はあるか。</p> <p>2. 放課後児童クラブ(学童保育)の拡充は急務ではないか 大磯小学校と国府小学校の学童保育の受け入れに差異があると聞き及ぶ。町内の児童が同じように楽しい放課後を過ごせる環境整備のためには、施設の拡充が急務と考えるが、所見を問う。</p> <p>3. 大磯町の農地を守る方策は 手続きはされているものの、農地として不適切な状況にある農地が見受けられる。良好な農地を守る方策について、所見を問う。</p>	<p>町 長 教育長</p> <p>町 長</p> <p>町 長</p>
<p>8</p> <p>6番 玉虫志保実議員 (55分) 10:15 ~ 11:10</p>	<p>1. 大磯町行政の議員への対応は、公平なものになっているか 議会から何度も、登壇する議員により「答弁する態度を変えないように、答弁する態度に差をつけないように」と池田町長に申し入れをしているが、改善が見られない。前回の9月定例会の私、玉虫の一般質問の2問目で、私の通告時間を奪い、「再質問に答弁する前に、X(旧ツイッター)への投稿記事に関して、謝罪しないと、再質問に答えない」という主旨で、町長が答弁するための条件を出した。これは、町長の持つ権利である反問権の趣旨を越えていたと考える。そこで、質問する。 (1) 一般質問とは関係のない、ひと月以上前の私のSNSへの投稿の内容に関する訂正を、なぜ、池田町長は一般質問前夜や一般質問の通告時間内に指摘し、謝罪を要求したのか。その理由と妥当性について、明確に回答していただきたい。 (2) 子どもが何人が写っている私のSNSへの書き込みについて、「本人の許可を得ていないのであれば直ちに掲載を削除することを求める」という大磯町長名の文書が郵送により届けられた。この書面を発行した理由と経緯について伺う。また、他の議員のSNSの投稿に対しても同様な対応をしているか。同じ対応をしていない場合は、その理由を伺う。</p> <p>2. いじめ問題への大磯町行政の取り組み姿勢について問う 昨年、いじめ重大事態に指定された大磯町立小学校のいじめ問題が解決しないのは、町長が一部の大人、保護者に忖度をしているから本件に対してしっかり対応していただけないのではないかとこの被害児童や被害児</p>	<p>町 長</p> <p>町 長 教育長</p>

	<p>童保護者の辛い気持ちを伺っている。子どもたち、児童生徒は保護者が誰であれ、公平に扱われるべきである。そこで質問する。</p> <p>(1) 第三者委員会の調査結果が、ここまで遅れている原因に第三者委員会への資料提供が的確に行われていないことが今年の7月25日のNHK報道からも理解できる。資料提供が的確にできない理由は何だと町長と教育長は考えるか。</p> <p>(2) 11月8日の「こどもいじめ相談 大磯町が窓口新設」という見出しの新聞記事に被害児童保護者は池田町長に不信感を持たれている。「こどもいじめ110番(仮称)を来春に新設する方針を決めた。」とあるが、議会への説明をする前の新聞掲載を止められなかったのか、止めなかったのか。町長の考えを伺う。</p> <p>(3) 新たに「(仮称)大磯町こどもをいじめから守る条例」を制定し、令和7年4月1日に施行するという。池田町長就任以降、NHKで報道された大磯町立小学校の出席簿の不可解な記載漏れなど、次々に新しい問題が発生している。条例制定は第三者委員会の調査結果が出た後にすべきではないか。調査結果なしに、事態を十分理解した条例が作れるとは考えられない。どんなに遅くても、条例施行前に第三者委員会の調査結果は出すということか。それとも、条例制定と第三者委員会で調査しているいじめ重大事態とは切り離して考えているのか。町長の考えを伺う。</p>	
<p>9 2番 橋本 秀彦議員 (40分) 11:25 ~ 12:05</p>	<p>1. 学校施設のトイレの洋式化は</p> <p>今年の4月に、大磯中学校の入学式に参加した。出発の門出に参加でき喜びを分かち合えた一方、保護者の複数の方から届いたメッセージは喜びの声ではなく、トイレが臭くて使えないから何とかしてほしいというお声で、その後も同様のお話があった。子育て、こどもまんなかの施策を推進している大磯町において、とてもショックなご要望であった。トイレを我慢して体調を崩している子もいることを聞くに及んで、学校施設のトイレの問題は、喫緊の課題と考え、次の点について伺う。</p> <p>(1) 大磯町立の小中学校ごとの和式、洋式トイレの数は。</p> <p>(2) 学校施設のトイレの現状について、児童及び生徒の声は町に届いているか。</p> <p>(3) 学校トイレ施設の悪臭対策は。</p> <p>(4) 学校教育の中で、トイレや排泄に関する教育はあるか。</p> <p>(5) 町として学校施設のトイレの洋式化計画はあるか。</p>	<p>町長 教育長</p>
<p>10 15番 庄子 幸太議員 (45分) 13:05 ~ 13:50</p>	<p>1. まちづくり条例の検証や見直しについて</p> <p>平成13年に策定された「大磯町まちづくり条例」は、同14年の施行以来およそ20年余りが経過している。</p> <p>さらに、総合計画基本構想の実現を目指し、大磯らしい土地利用やまちづくり分野を計画的に進めるため、平成32年度(令和2年度)を計画期間とした「まちづくり基本計画」を平成18年度に策定している。</p> <p>この間、平成19年の神明町と平成22年の台町代官山のマンション開発の反対運動を契機とした「地区まちづくり協議会」の設置や計画の作成、</p>	<p>町長</p>

	<p>他にもまちづくり団体の組織に発展し、町民主体の“自治”によるまちづくりに大きな役割を果たしてきたと承知している。</p> <p>しかし、近年ではそれらまちづくりを推進する団体において、担い手不足や行政手続きの煩雑さからくる支援の難しさを背景に、既に活動を休止している団体を含め運営の存続が危ぶまれ、事業の継続性が課題となっている。制定から約20年と移ろう中で、少子高齢化や核家族化が進み、地区のまちづくりへの参画形態も大きく様変わりしている。</p> <p>これまでの地区計画制度は、土地利用に制限を加えることで、閑静で住みよい街並みの維持に一定の効果が得られたことは事実であるが、現代においては、例えば自宅でカフェや音楽教室をしたい、絵画教室で地域の創作活動に役立ちたいといった、自由で彩ある暮らしを望む移住者にとっては、時としてハードルとなってしまふことにもなりかねない。</p> <p>さらに言えば、町では今後新庁舎や消防庁舎、教育施設の建替え改修計画も多く控えており、「秩序」あるまちづくりとしての都市計画決定や、「協調」によるまちづくりとしての開発事業手続きが数多く予定されることになっていくにあたり、これまでの検証を行うとともに、現代に合わせて実効性を伴うものに見直すべきだと感じる町民は多い。</p> <p>そこで、最上位計画である総合計画との整合やまちづくり条例ならびにまちづくり基本計画について、町の考えを伺う。</p> <p>(1) 町民主体の自治によるまちづくりの現状と課題は。</p> <p>(2) 地区まちづくり計画等(条例第11条)の規定は、地区住民等の2分の1以上の者による同意などハードルが高いうえ、土地利用の制限が与える新たな転入者への影響についてどう捉えているか。</p> <p>(3) 総合計画における土地利用のKPI(重要な業績評価の指標)を踏まえ、適切に推進されていると考えるか。</p> <p>(4) 開発事業の手続きで審議会や町民が果たす役割は何か。</p>	
<p>11 11番 高橋 英俊議員 (60分) 14:05 ~ 15:05</p>	<p>1. 「今後のいじめ防止対策」と「いじめ重大事態」について</p> <p>池田町長就任以降、大磯町政が乱れている。認定こども園開園の遅れ、新庁舎建設の遅れ、昨年の大磯町立小学校いじめ重大事態の解決の遅れ等、池田町長就任以降、大磯町政は停滞している。</p> <p>11月8日に町側が「大磯町における今後のいじめ防止対策」について議会に説明する前に新聞報道で内容が発表されたことは、議会軽視と断じざるを得ない。</p> <p>また、防止対策の中で「大磯こどもいじめ110番(仮称)」を新設して、専門家がいじめの疑いがあると判断した場合、町長部局と教育委員会で作る総合教育会議に通報し、町長が教育委員会に調査や報告を求めるという内容と承知している。また、「大磯町こどもをいじめから守る条例(仮称)」策定を目指していることも承知している。</p> <p>前回の一般質問にて昨年4月のいじめ重大事態の被害児童、被害児童保護者の証言を踏まえて「寝屋川モデル」をベースにしたいじめ対策を訴えたが、池田町政の提案は不十分な対策と言わざるを得ない。</p> <p>本件は、池田町長が一部の公職である加害児童保護者への忖度が懸念されている。また、被害児童、被害児童保護者の訴えでは一部現職町議の中</p>	<p>町長 教育長</p>

にも本件について付度している人物が居ると聞いている。

池田町長は就任以降、総合教育会議でこの問題を取り上げる機会があったのに取り上げなかった。この状況を踏まえると、付度の懸念がある町長の判断で教育委員会に調査や報告を求めるとするのは公平公正な対応の視点から問題がある。

また、池田町長は否定されるだろうが、今回のいじめ重大事態問題の公表も池田町長の後ろ向きな態度によって遅れを招いていると言わざるを得ない。この状況で条例を策定するのは疑問をもつ。

これらを踏まえて、今回の一般質問では池田町政の考えるいじめ対策と昨年4月のいじめ重大事態に関する進捗状況について町長と教育長に質問する。

(1) 昨年4月に発生した「大磯町立小学校いじめ重大事態」について、調査結果の公表が大幅に遅れている。町長は教育委員会の対応と、教育委員会に責任転嫁をしていると言わざるを得ない発言も過去にあった。何故ここまで遅れているのか。遅れている理由と早期公表に向けた今後の対応について町のトップとして回答を求める。

(2) 「大磯こどもいじめ110番(仮称)」について質問する。専門家がいじめの疑いがあると判断した場合、町長部局と教育委員会で作る総合教育会議に通報し、町長が教育委員会に調査や報告を求めるとのことだが、現在の大磯町の場合、町長部局や教育委員会が公平公正な対応が出来ないケースも想定される。

そういったケースも踏まえて、スクールカウンセラーや弁護士等、第三者機関を設置し、そこで判断するのが公平公正な対応だと思うが如何か。これは被害児童、被害児童保護者の意見でもある。

(3) 11月8日に町側が「大磯町における今後のいじめ防止対策」について説明をされたが、議会に説明する前に新聞報道で内容が発表されたことは、議会軽視と断じざるを得ないと考えている。

この件について、池田町長はどのように考えているのか。新聞報道が先行しただけである等と、責任転嫁することがないように回答を求める。

(4) 今年の7月25日に本件いじめ問題について出席簿の誤記載がNHKで報道された。

本来であれば、早退であったにも関わらず、午後の授業に出席している等、少なくとも数十か所の誤りが見つかったと承知している。

教育長は出席簿といじめ問題を切り分けて考えたいという主旨の説明があった。しかし、この出席簿の誤りの期間は加害児童グループから「デブは給食を食うな」と言われ、早退せざるを得ない期間と重なる。この件は第三者委員会の調査結果にも影響すると調査委員もNHKの取材でコメントしている。いじめ問題と切り分けて考えるというのは論理的な話ではないのではないか。

その点について教育長の考えを求める。

2. 雨水計画の現状の認識と今後の対策について

令和6年8月30日の台風10号に伴う大雨の影響により、8月29日か

町長

	<p>ら9月2日にかけて、町内全体で降り始めからの降雨量は438.5mmとなり、8月30日金曜日だけでも1日の降雨量は220.5mm、7時10分から8時までの間、時間あたり43.5mmという降雨量であった。</p> <p>被害状況としては、人的被害はなかったものの、床上浸水4件、床下浸水4件、土砂崩れ13件、停電については黒岩地区で約20件、虫窪地区で10件程度などがあった。</p> <p>地球温暖化の関係で線状降水帯が発生するような異常と言える降雨量状況の中、大磯町として今後の雨水計画について、都市下水路、道路や架道橋等も含め、改めて計画の見直しが必要であると考えているが、町としてどのような対策（政策、施策）を考えているのか伺う。</p>	
<p>12</p> <p>9番 石川 則男議員 (60分) 15:20 ~ 16:20</p>	<p>1. 町民のささやかな疑問要望にどう応えるか</p> <p>(1) 大磯町立小中学校のいじめ問題への対応は適切か 「被害児童は暴力を受けて、学校に行くのが怖いという気持ちがある。」と担任が令和3年7月28日のレポートでコメントしている。 いじめ問題に学校は本当に組織的に対応していたのか。</p> <p>(2) 消防団への寄附金について 「大磯町消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例」第8条（服務規律）第8項及び第10項について説明して頂きたい。</p> <p>(3) 横溝千鶴子記念障害福祉センターの活用について 2022年かたつむりの家が巣立った後、横溝千鶴子記念障害福祉センターの使用法として横溝千鶴子氏の遺志を尊重した知恵ラボの答申が前町長に出されているが、どう遺志を尊重しているのか。</p> <p>(4) 公共施設のトイレについて 大磯中学校の思い出は雨漏り校舎という投稿が以前あった。その後トイレが汚いので帰るまで我慢をするという話が届いた。しかし一向に改善されない。また、洋式トイレの方が節水になるというデータがある。そこで次の点について問う。 ①小中学校に82ある和式便器はいつになったら洋式便器になるのか。 使ったこともない児童生徒に何年も我慢させるほど予算がないのか。 ②2015年和式便器はJIS規格から除外された。個人宅では圧倒的に洋式便器が多いが、大磯町の公共施設ではいまだに和式便器が多いのは何故か。</p>	<p>町長 教育長</p>
<p>13</p> <p>1番 二宮加寿子議員 (45分) 16:35 ~ 17:20</p>	<p>1. 全てのこどもの居場所づくりの推進について</p> <p>こども家庭庁から出されている「こどもの居場所づくりに関する指針」では、「こどもが本来持っている主体性や創造力を十分に発揮して社会で活躍していけるよう「こどもまんなか」の居場所づくりを実現することを目標としており、全てのこども・若者の健やかな成長や幸せな状態（ウェルビーイング）の向上に資すること、誰一人取り残さず、抜け落ちることのない支援であることが求められている。</p> <p>町では、第2期大磯町子ども笑顔かがやきプランの基本目標にも「子どもの心豊かな成長を育む環境づくり」を掲げており、施策の方向として「子どもの居場所づくり」を進めていると認識しているが、前回の9月議会で</p>	<p>町長</p>

	<p>は「夏休みの放課後子ども教室（サマースクール・おおいそ）」について伺った。今回は、放課後児童クラブ（学童保育）を始めとする居場所づくりについて、町の考えを問う。</p> <p>(1) 第2期大磯町子ども笑顔かがやきプランでは、地域子ども・子育て支援事業の一つとして、放課後児童クラブ（学童保育）について、量の見込みと確保方策を設定しているが、実際の利用者数と確保方策の現状について伺う。また、学童保育の実施にあたり課題があれば合わせて伺う。</p> <p>(2) 放課後児童クラブ（学童保育）の確保方策に、放課後子ども教室との連携をうたっているが、その進捗状況について伺う。</p> <p>(3) 令和7年度から新たにスタートする（仮称）大磯町こども計画の中でも、子どもの居場所づくりについてはうたわれると思うが、今後、町ではどの様に子どもの居場所づくりを進めていくのか伺う。</p> <p>2. 産前産後の支援について</p> <p>町では、今年度より児童福祉と母子保健の一体的な相談支援等を行う「こども家庭センター」を設置し、産前産後から子育て期を通じた切れ目のない継続的な支援を提供できる体制を構築された。また児童福祉法の改正により「児童及び妊産婦の福祉に関する把握・情報提供・相談等、支援を要する子ども・妊産婦等へのサポートプランの作成と支援の実施」、「児童及び妊産婦の福祉に関し、家庭その他につき、必要な支援を行うこと」が町の業務に位置づけられたと認識している。</p> <p>妊娠期から身近な場所で相談に応じ、多様なニーズに応じた支援につなぐ、いわゆる伴走型相談支援などの産前産後の支援について問う。</p> <p>(1) 町でも早い時期より産後ケアの支援を実施していると思うが、国では、不妊、予期せぬ妊娠や基礎疾患を持つ方の妊娠など、妊娠・出産・産後の健康管理に係る支援について、栄養管理を含め健康管理を行うよう促すプレコンセプションケアの取組を推進している。町の現状について伺う。</p> <p>(2) 令和4年の児童福祉法の一部改正で、要支援・要保護児童及びその保護者、また特定妊婦等を対象とした子育て世帯訪問支援事業（訪問による生活支援）がうたわれており、本事業は産前産後の母親に寄り添い家事や育児などの日常生活のサポートを担う「産後ドゥーラ」の活動と一致するものもあると考える。町では産前産後の母親に寄り添い支える訪問支援サービスをどの様に進めていくか伺う。</p> <p>(3) 現在作成中の（仮称）大磯町こども計画では、ライフステージに応じた各世代支援が重点項目に掲げられているが、こども家庭センターを設置した大磯町には、妊娠・出産期、産前産後の支援を特に期待するところである。今後、産前産後の支援をどの様に進めていく考えなのか伺う。</p>	町 長
--	--	-----

13名 23問

時間は、事情により変更になる場合がありますのでご了承ください。